

バイオ・農業経営に関する技術取得および

経営感覚を身につけた教科指導の工夫

熊本県立鹿本農業高等学校 教諭 市田 信悟

1 はじめに

本部会は、情報・バイオ・機械に関する先端技術および流通経営感覚を身につけた教科指導の工夫と充実を目的としている。昨年度に引き続き「バイオ」と「農業経営」の専門的な知識・技術の習得に関する研修を行った。

2 研究の経過

(1) 第1回専門部会

ア 期 日：平成29年6月9日（金）

イ 会 場：熊本農業高等学校

ウ 参加者：13人

エ 内 容：今年度の取り組みについて

(ア) 平成29年度のテーマ設定

「バイオ・農業経営に関する技術取得および経営感覚を身につけた教科指導の工夫」

(イ) 第2回・第3回専門部会内容について

(2) 第2回専門部会

ア 期 日：平成29年8月21日（月）

イ 会 場：鹿本農業高等学校 生物工学基礎実験室

ウ 参加者：10人

エ 内 容：実験実習「スパティフィラムの増殖培養」

「キノコの菌床づくりと接種」

オ 講 師：鹿本農業高校 植物バイオ（寺原聡一先生・勢田佳奈先生）、

微生物（竹村康弘先生・安尾良子先生）

カ 研修概要

本年度は、日々の授業や実験活動の見直しと改善策を図るため、科目「植物バイオテクノロジー」の基礎・基本的な実験を実践しながら意見交換を行った。研修Ⅰでは、実験素材をスパティフィラムとし、短縮茎を利用した増殖培養を行った。素材の粗調整から消毒、置床までの一連の実験工程を実践。実験準備から工程上の留意点を確認するだけでなく、各校が苦慮されている実験素材の選定・調達から実験テーマの課題設定などについても意見交換を行った。研修Ⅱでは、木質バイオマスの利用法としてキノコの菌床栽培に必要な培地を作製。培地組成・培地水分量・瓶詰め仕方・接種・菌かき・培養条件を確認しながら一つ一つの工程を実践。また、添加・混合が可能な木質バイオマス材料や配合割合などについても検討する機会となった。



(3) 第3回専門部会

ア 期 日：平成29年11月2日（木）

イ 会 場：阿蘇中央高等学校清峰校舎

ウ 参加者：13人

エ 内 容：講義「新規就農者向け計数管理指導（農業簿記及び青色申告制度について）」
講演「情熱と浪漫の米作り」

オ 講 師：講義 熊本県阿蘇地域振興局農業普及振興課 参事 野口尚裕 様
講演 有限会社内田農場 代表取締役社長 内田智也 様

カ 研修概要

農業する上で農業経営・流通に関する知識や農業簿記のつけ方は、必須条件であり、農業高校においても「農業経営」「食品流通」などの科目において、その知識や技術の習得が求められている。

そこで、今回は、新規就農者向けの計数管理を軸に農業簿記や青色申告制度について地域振興局農業普及振興の野口参事よりご教示いただいた。また、午後の講演では、有限会社内田農場の内田智也代表取締役社長の講演が行われた。ICT導入により、「作業効率の向上」「消費者への情報開示」「栽培記録のデータ化」など一元的管理システムが確立された農業経営は、慣習的な地域農業を脱するものであり、革新的な農業生産や時代を先読む農業経営の在り方について、具体的な実践事例を交えながら学べる講演内容であった



講義 農業普及振興課参事 野口尚裕 氏



講演 有限会社内田農場 内田智也 氏

3 おわりに（まとめ）

昨年度から引き続き「バイオ」「農業経営」の研修をしましたが、本研修で学び得た知識や技術を日々の教科指導で活かし、生徒の理解度を高めていただければ幸いです。最後に、ご多用中にもかかわらず、本研修を快く引き受けていただいた、鹿本農業高校の4名の先生方並びに有限会社内田農場代表取締役社長の内田智也様、農業普及振興課参事の野口尚裕様には心から感謝申し上げます。